

## 1. 評価結果概要表

作成日 2009年3月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0871000261		
法人名	有限会社ヘルスケアー下妻		
事業所名	ケアプラザうららグループホーム		
所在地	茨城県下妻市下妻戊34-1 (電話) 0296-44-0110		

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市元石川町2523-3		
訪問調査日	平成21年3月16日	評価確定日	平成21年6月10日

## 【情報提供票より】(平成21年2月5日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	6.93 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨2階 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分		
------	----------------------------	--	--

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

## (4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 8 名	女性 10 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	7 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 81 歳	最低 58 歳	最高 91 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	軽部医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

居宅サービスを提供する家族からの要請と、地域に還元したいとの思いから立ち上げたグループホームは、幹線道路に面しているが騒音は全く感じなかった。近隣の自治会に加入してその総会に出席をしたり、環境整備、地下水タンクの清掃を行っている。夏祭りには休憩場所として提供し、利用者と一緒に子供たちはカキ氷を食べたり、お花や野菜を頂いたりとごく普通の交流が来ている。併設の保育園、学童保育の児童との交流もさかんである。ホームの管理者の思いから『笑顔を絶やさない(笑いのあるホーム)』がそのまま利用者、職員に浸透されていた明るいホームであり且つ利用者に対する職員の対応は丁寧であった。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は外部研修への職員の参加、災害対策項目の備蓄品の整備と地域住民との協体制であった。外部研修は現段階で出来るだけ参加できるように努めた。備蓄品は検討中であるが、地域住民との協体制については運営推進会議において依頼をした。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に関しては全職員で話し合い管理者がまとめ作成した。自己評価、外部評価を行うことにより、日々のケアを再認識する機会であると捉えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごとに、行政、地域代表、利用者家族代表、管理者、職員のメンバー構成で開催し、外部評価結果、改善策、ホームの行事内容、サービス内容等を報告し席上で出た意見等は職員間で話し合い、ケアの質の向上に努めている。家族への報告は必要に応じて面会時に行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見の言い出しにくい家族への配慮として、意見箱の設置、第三者の明示をしている。利用者の生活状況を電話連絡するときや面会時にも意見を聞くようにしている。意見、苦情等があった場合は苦情報告書に記載し、解決に努めるようになっているが、苦情は今のところ出ていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し地域の環境清掃、地下水タンク清掃当番に参加。地域の夏祭りには子供みこしが来てくれるので、休憩場所として提供している。近隣の方々とは散歩時の挨拶や収穫した野菜をいただいたりと日常普通の交流を行っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念、指針をホームの理念としているが、各ユニットごとに毎月の目標を立て、ケアに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関、リビングに掲示している他、申し送り時に唱和し管理者と職員は理念を共有し日々ケアに取り組んでいる。職員からの聞き取りからも利用者が満足できるサービスの提供に努めているとの話が伺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の環境整備、地下水タンク清掃当番に参加している。自治会総会に出席しホームに対する理解が得られるように努めている。地域の夏祭りには子供みこしが立ち寄ってくれるので、休憩場所として提供している。近隣の方々とは散歩時の挨拶や収穫された野菜を頂いたり、日常の普通の交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義は管理者から職員に伝えた上、自己評価は全職員で話し合い管理者がまとめ、作成した。前回の外部評価結果については、現状の中で出来るだけ研修に参加するように努めている。近隣の協力については運営推進会議にて依頼済みであるが災害対策の備蓄品の整備は未だに改善されていない。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに行政、地域代表、利用者家族代表、ホーム管理者、職員のメンバーで開催。会議内容は、外部評価結果、改善策、ホーム行事内容、利用者へのサービス内容等を話し合い、席上で出た意見はサービス向上に努めている。会議内容は議事録にまとめ職員にも回覧していることが確認された。		

茨城県 ケアプラザうららグループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月利用者の状況報告を行い、意見交換や相談することによりサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の近況報告、金銭管理は面会時や電話にて報告をし、報告内容は受診記録に残し職員間で共有している。利用者個人のアルバムを作り、ホーム内や外出時の様子を見せると同時に利用者や家族との話題作りとなっている。職員異動については面会時に報告。ホーム便り『うらら通信』は年1度発行。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の近況報告時、面会時、行事参加時等に意見を聞いている。意見箱の設置、外部第三者の明示により意見の言い出しにくい利用者、家族に対する配慮をし、それらを運営に反映するように努めている。苦情は今までなかった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内の異動は、利用者を第一に考え行うようにしている。管理者は職員が働きやすい環境となるよう、悩みや相談にのることにより離職を抑えるように努力をしている。新人職員に対しては利用者との関係を築ける間は管理者と共にケアに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修やミーティングで勉強を重ねている。外部研修参加後はミーティングで報告、研修報告書に内容、反省点等を残し全職員と共有している。		研修参加回数は増えているが、職員の意欲、向上心も高いので、今後は職員のレベルに合わせた研修への参加を考慮してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県グループホーム協議会に加入し必要に応じ管理者、職員と共に勉強会、他ホームとの交流に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。系列のグループホームとは合同で餅つき、花火大会を開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族との面会を重ねたり、ホームに見学に来てもらい職員、他の利用者、ホームの雰囲気に馴染んでもらってから利用開始としている。希望によっては体験入居も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中から利用者から教えてもらう場面が多く、喜怒哀楽を共にし、自然と支えあう関係を築いている。沈んでいる職員に対しては励ましの言葉をかけてもらったり、時には人生相談をしてもらうときもある。今年も節分にすみつかれを利用者に教わりながら作った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に希望、意向を聞いたり、利用者との日々のコミュニケーションの中から把握に努めている。意思表示の難しい利用者に対しては表情から把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、利用者の意見や要望を聞き、ケアカンファレンス会にて職員と意見交換を行い介護計画を作成している。作成後は職員と家族にも報告している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化がない場合は1年毎の見直しをしているが、変化が生じた場合はその都度ケアカンファレンスを行い新たな計画を作成している。モニタリング用紙で評価を行っている。医療的支援が必要な場合は主治医の意見を聞き、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービス利用者との交流を行っている。系列のグループホーム合同行事を開催(花火大会、餅つき)し、利用者は楽しみにしている。利用者、家族の状況に応じて通院や介護保険の更新手続き等、事業所で出来る支援を行っている。併設の保育園児、学童保育の児童との交流がある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族、利用者の希望を優先している。協力医療機関受診時は職員が付き添い、受診結果を家族に報告し記録に残している。かかりつけ医受診時は家族が付き添い、受診報告を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に関しては契約時に医療行為が必要になったら退去となる旨説明をし同意を得ているが、今後医療、家族、職員の連携が出来れば職員間で勉強会を重ね、家族、利用者の要望にこたえたいと考えている。調査日に職員の前向きな意見が聞けた。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉かけ、対応は非常に丁寧と感じた。書類等は事務所に保管。面会時の報告は玄関先や事務所内にて行っている。個人情報利用目的は書面にて明示し契約時に同意をとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況に応じ利用者の希望に沿って、買物、散歩、外出等の支援を行っている。起床時間、食事時間帯、就寝時間等は利用者のペースで生活している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲内で職員と共に準備や片づけを行っている。 職員と利用者は同じテーブルを囲み、会話を楽しみながらの食事風景であった。介護用エプロンは廃止し、布を利用したナプキンを使用しているのが非常に良かった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回の入浴ではあるが、利用者の希望にあわせた支援に努めている。季節を感じてもらえるようにゆず湯、菖蒲湯で楽しんでもらうようにしている。入浴拒否の利用者に対しては声掛けなど色々工夫して入浴を促している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活習慣、趣味、力量に合わせ(男性には力仕事をやらせてもらう時もある。掃除、洗濯たたみ、洗濯干し、畑仕事等)楽しみながらの支援に努めている。 カラオケ、ビデオ鑑賞により気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って、買物、散歩等戸外に出られるように支援している。ドライブ、外食に出かけ気分転換を図れるようにしている。最近では通院の帰りに、買物に行ったりすることが多い。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状況を把握の上、職員間で声を掛け合いながら注意を払い、施錠をしないケアに取り組んでいることが、調査日に確認できた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの上、利用者も参加し定期的に避難訓練を実施。(夜間想定、消火器の使い方) 災害時に持参する避難バッグは準備され、職員は把握している。近隣の協力依頼は運営推進会議にて行った。備蓄品は未だに準備されていない。	○	備蓄に関し(飲料水、非常食)の整備を早急に進めて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分は記録し利用者の体調管理に努めている。栄養バランスについては栄養士に献立を見てもらい指導を受けている。医療面からの体調管理に関しては主治医と相談しながら食事の提供や形態を個別に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間と台所が近いので包丁の音や調理の匂いなど生活観が感じられる。時間、日時の確認を意識付けのためにカレンダー、時計の設置場所に工夫が感じられた。季節の花がところどころに配置され心と和む空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具の配置等により利用者が過ごしやすい環境であることを家族に説明し、協力を得、心地よい居室となっている。		